

事例2

< 事例概要 >

・ 60 歳代男性。リウマチ性間質性肺炎急性増悪の患者。副腎皮質ホルモン薬、免疫抑制薬使用中。

・ 死因は、両側緊張性気胸と肺虚脱による呼吸不全。死亡時画像診断 (Ai) 有、解剖無。

・ 人工呼吸器管理下で気管挿管の長期化により、手術室で気管切開術 (逆U字切開) を施行。気管壁と皮膚の縫合有。気管切開チューブと皮膚の縫合固定無。

・ 逸脱当日の人工呼吸器設定：PCV[※]、FiO₂ 0.5、自発呼吸有。

・ 気管切開術 7 日後、予定していた気管切開チューブ交換を実施。その 3 日後、病棟で体位変換を実施した後、気管切開チューブのカフが見えた。位置修正を試みたが挿入・換気できず、最終的に経口挿管となったが、すでに低酸素、縦隔気腫、両側緊張性気胸をきたしており、気管切開チューブ逸脱後約 1 時間で死亡。

※ PCV：圧設定陽圧換気